

<生育イメージの前提条件>  
・ 稚苗 (加温出芽) ・ 5/10田植え ・ 8/5出穂

# J A魚沼 (小千谷) コシヒカリ栽培暦

<収量構成要素>

J A魚沼小千谷基幹幹農センター

収量 (kg/10a)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	1穂粒数 (粒)	m <sup>2</sup> 当り粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)
510	340	76	26,000	90	22.0

<栽培方針>  
・ 基本技術の徹底で、品質の高位安定・適収量の確保 ・ 温暖化に対応するため、高温対策技術の積極的な実施 ・ 魚沼米憲章を遵守し、安全安心な高品質・良食味米の生産

時期	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月	
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中

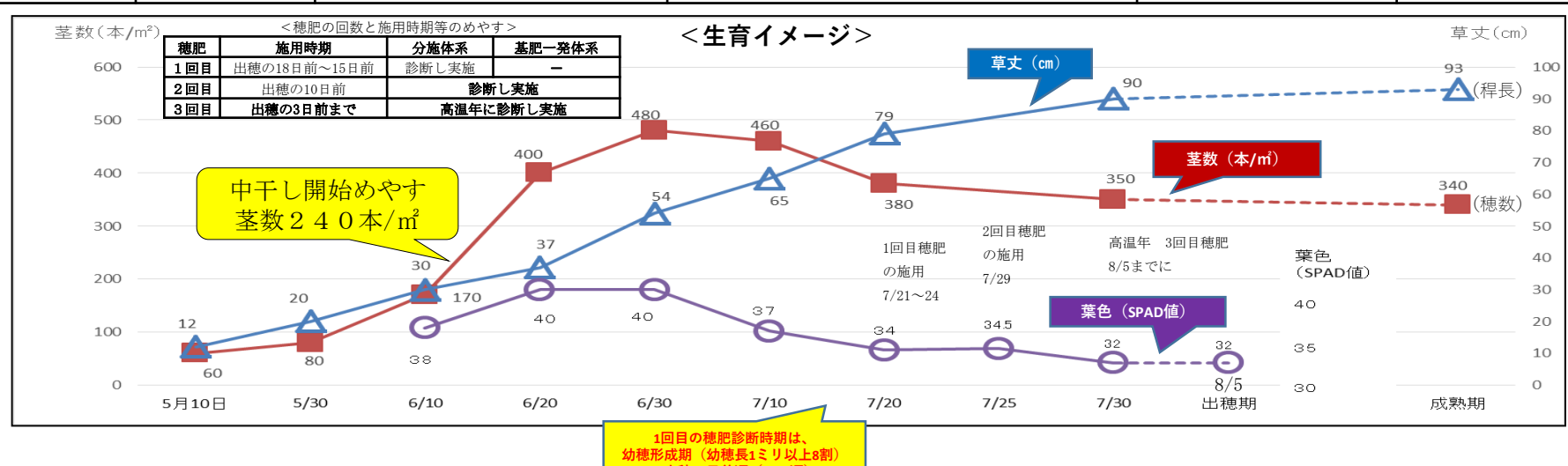
**生育イメージ**

○育苗準備と作業等  
・ 種子更新  
・ 温湯消毒  
・ 育苗土等資材準備

○稚苗育苗の主なめやす等  
<播種量>  
・ 乾籾140g/箱

<稚苗の生育目標>  
・ 苗丈 12cm  
・ 葉数 2.0葉  
・ 第一葉鞘長 3.5~4.0cm

<留意点>  
・ 育苗箱での「いもち病」防除を必ず実施  
・ 苗ヤケに注意



<穂肥の回数と施用時期等のめやす>

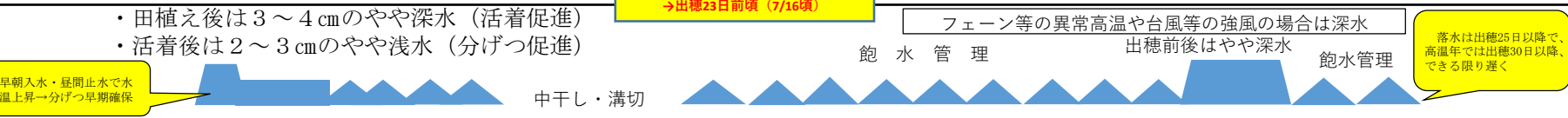
穂肥	施用時期	分施肥系	基肥一発体系
1回目	出穂の18日前~15日前	診断し実施	-
2回目	出穂の10日前	診断し実施	-
3回目	出穂の3日前まで	高温年に診断し実施	-

**水管理**

・ 耕深15cmを確保  
・ 丁寧な代かき  
・ 畔塗の実施

早朝入水・昼間止水で水温上昇→分けつ早期確保

中干し・溝切



**栽培管理のポイント**

**ポイント1**  
~適正な作業計画で、健苗移植・適期収穫を~  
・ 田植えや収穫能力を加味した育苗計画を立てる。  
・ 田植えが1か月遅いと出穂は10日程度遅れる。

○作業日程 (例)

浸種 4/10 4/22

積算水温120°C (12°C × 10日) 約10日

催芽 4/20 5/2

約2日

播種 4/22 5/4

加温出芽 2日含む

概ね 18日

育苗

田植え 5/10 5/20

気温・育苗様式で異なる

**ポイント2**  
~ほ場条件にあった基肥N量で適正穂数の確保を~  
・ 基肥N (チッソ) 量は、必要な茎数 (穂数) を確保するための量とし、ほ場条件により施用量を加減する。  
○基肥施肥 (例)

肥料名 (例) ※	施用量 kg/10a	N量 (内化学N量) kg/10a
(例1) 越後の輝き有機50元肥	30	3.0 (1.47)
(例2) 越後の輝き有機50スーパー元肥 (基肥一発肥料)	38	4.6 (2.24)

※ (例1) 又は (例2) のどちらか一方を施用

**ポイント3**  
~遅れず中干し開始で倒伏軽減を~  
・ 中干し開始のめやす 茎数240本/m<sup>2</sup> (目標穂数340本/m<sup>2</sup>の70%)  
→50株植え: 15~16本/株になった時  
→60株植え: 13~14本/株になった時

・ 中干しの程度は、小ヒビ中干しを基本とし、ほ場条件で加減する。  
→地力の高いほ場 強め・長め  
→地力の低いほ場 弱め・短め

・ 中干し終了のめやす 出穂の30日 (異常高温年は40日) 前までに終了する。

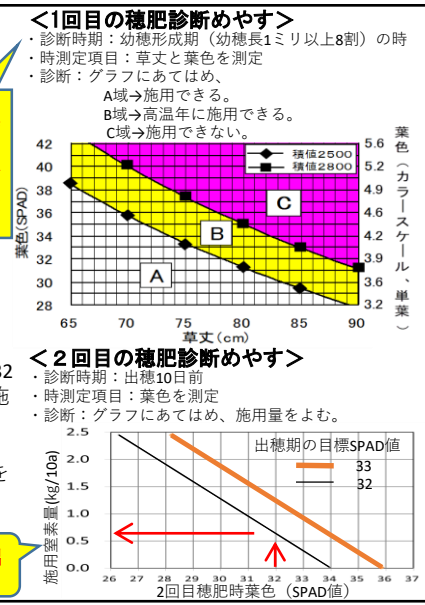
**ポイント4**  
~生育診断による穂肥で収量・品質向上を~  
・ 穂肥は、葉色や草丈、茎数などで総合的に判断

**<分施肥 (基肥+穂肥)>**  
1回目: 出穂18~15日前 (幼穂長0.5~1.0cm)  
2回目: 出穂10日前 (幼穂長10cm、葉耳間長±0cm)

**<基肥一発>**  
・ 継続的に葉色診断  
・ 出穂10日前に出穂期にSPAD値が32~33を下回ると予想される場合に施用する。

**<異常高温年>**  
・ 出穂の3日前までに3回目の穂肥を施用する。

診断時期と施用時期のズレに注意



**ポイント5**  
~適期刈り取りで品質・食味の維持・確保を~  
・ 出穂期からの積算気温950~1,000°Cを目安に収穫計画を立て、籾の黄化率85%~90%で収穫する。  
・ 出穂期は、ほ場で穂が出る茎の4~5割が出穂したとき。

**ポイント6**  
~土づくりで品質・食味向上を~  
・ ケイ酸質肥料や籾ガラを積極的に施用する。  
・ 堆肥等の施用  
・ 稲わらの秋すき込み